

ご利用上の注意事項とよくあるご質問 Local data Protection for FAT PC

2026/1/21 更新

目次

はじめにご確認ください.....	2
1. 対象バージョン.....	2
2. 秘密分散領域として利用可能なドライブ	2
3. 必要な接続環境	2
4. 用語解説.....	2
5. ご利用上の注意事項	2
よくあるご質問.....	6
1. サーバーに接続できない	6
2. 持ち出しデバイスに接続できない.....	6
3. オンライン・オフライン運用の切り替え時のトラブル	7
4. サーバーまたは持ち出しデバイスからの切断に関するトラブル.....	8
5. ファイル保存に関するトラブル	8
6. 表示に関するトラブル	9
7. OneDrive に関するトラブル	10
8. エラーメッセージが表示された場合	10
9. その他のよくあるご質問	12
商標および著作権.....	15

はじめにご確認ください

1. 対象バージョン

Local Data Protection for FAT PC V1L10 / V1L11 / V1L20 / V1L21 / V1L21A

2. 秘密分散領域として利用可能なドライブ

- ・ Cドライブのみです。Cドライブ以外のドライブを秘密分散領域として設定することはできません。
- ・ NTFS のみに対応しています。ReFS には非対応です。

3. 必要な接続環境

- ・ オンライン運用
次のいずれかのサーバーをご用意ください。
 - Server Message Block (SMB) をサポートする Network Attached Storage (NAS) または Windows Server
 - OneDrive for Business
- ・ オフライン運用
オフライン環境で利用（ファイルを持ち出して利用）する場合、次の要件を満たすいずれかのデバイスをご用意ください。
 - スマートフォン
 - Android スマートフォン：Android 10 以降 もしくは iPhone：iOS 14 以降
 - Bluetooth® v5.0 以降対応機種
 - ストレージ空き容量：アプリ、データ併せて 100MB 程度
 - USB メモリ
 - 本製品の運用専用に利用できる USB メモリ
 - セキュリティ機能やハードウェア暗号化機能が付いていない USB メモリ
 - USB 2.0 以上、容量 128MB 以上推奨

4. 用語解説

用語	解説
秘密分散処理	ファイルを複数の断片に分け、パソコン内と外部ストレージに分散保存する仕組み。
秘密分散領域	秘密分散処理により保護対象となる特定のフォルダー。デフォルトではドキュメント、ピクチャ、ビデオ、ミュージック、ダウンロード、デスクトップ、3D オブジェクトの各フォルダー。
断片	秘密分散処理されたファイルの一部。単体では意味を持たない。
オンライン運用	本製品を OneDrive またはファイルサーバーに接続してパソコンを使用すること。
オフライン運用	本製品をスマートフォンまたは USB メモリに接続してパソコンを使用すること。
サーバー	オンライン運用時の接続先。OneDrive またはファイルサーバー。
持ち出しデバイス	オフライン運用時の接続先。スマートフォンまたは USB メモリ。
RAM ディスク	秘密分散処理の作業領域。本製品の設定に応じたサイズの RAM ディスクがサインイン時に自動的に作成される。

5. ご利用上の注意事項

1. Windows の「システムの保護」を使用して復元ポイントの状態に戻す処理は使用できません

本製品をご利用の環境では Windows の「システムの保護」を使用して復元ポイントの状態に戻す処理は使用できません。本製品が動作しているとパソコン内のファイルは、秘密分散処理された断片のみ保存されます。この断片はもう一方がサーバーや持ち出しデバイスに保存され、両者に不整合があると正しくファイルを復元できなくなります。Windows のシステムの保護によって記録された状態を復元しようとするパソコン内の秘密分散処理された断片と、サーバーや持ち出しデバイスに保存されている断片に不整合が生じるためファイルが復元されません。

2. Windows のアップグレードを実施した後、「以前のバージョンの Windows に戻る」を実行すると、本製品が正常に動作しなくなります

本製品をインストールしたパソコンでは、Windows のアップグレードを実施した後、「以前のバージョンの Windows に戻る」を実行しないでください。

3. **秘密分散領域に作成したフォルダーに暗号化の設定をしても、再起動すると暗号化が解除されます**
秘密分散領域に作成したフォルダーに暗号化の設定をすることはできません。暗号化を有効にしても、パソコンを再起動すると暗号化の設定は解除されます。
4. **パソコン内の重要なデータは必ずバックアップしてください**
秘密分散処理の影響により万一の場合にファイルが使えなくなることを防止するため、以下のタイミングでファイルをバックアップすることをお勧めします。
 - ・ ファイルの保護を有効にする前にバックアップする
 - ・ ファイルの保護を無効にする前にバックアップする
 - ・ ファイルの保護が有効になっている間、定期的にバックアップする
5. **サーバーや持ち出しデバイスから切断しているときはファイル操作を行わないでください**
切断中は秘密分散処理が無効のため変更が保存されず、ファイルが開けなくなる可能性があります。
6. **持ち出しデバイスとして登録したスマートフォンからスマートフォンアプリの「Local Data Protection」やそのデータを削除しないでください**
本製品の動作に必要な秘密分散処理された断片やリスク通知ログは、スマートフォンアプリの「Local Data Protection」のアプリデータとして保存されます。このため、「Local Data Protection」をアンインストールしたり、アプリデータやキャッシュを削除したりすると、パソコンにサインインできなくなったりファイルが消失したりするなど正常に使用できなくなります。
7. **オフライン運用からオンライン運用へ切り替えるときに「スマートフォンが無い場合」または「USB メモリがない場合」を選択すると、オフライン運用で作成したファイルや、更新した内容が破棄されます**
「スマートフォンが無い場合」、「USB メモリがない場合」を選択して「OneDrive に接続する」、「ファイルサーバーに接続する」からパソコンを使い始めた場合、次の状態となります。
 - ・ オフライン運用で更新していた内容は破棄されます。
 - ・ オフライン運用で新規にファイルを作成した場合は、ファイルのアイコンがエクスプローラーに表示されていますが、ファイルを開くと「ファイルが見つかりません」のエラーを表示し、その後アイコンが消えます。
8. **サーバーや持ち出しデバイスから切断せずにパソコンの再起動やシャットダウン、サインアウトをするとファイルが正しく保存されない可能性があります**
Windows やその他のアプリから再起動、シャットダウンの操作要求があった場合は、必ずサーバーや持ち出しデバイスから切断してから、それらの操作を実行してください。
秘密分散処理されたファイルは、サーバーや持ち出しデバイスから切断されるまで正しく保存された状態とならないため、ファイルが開けなくなる、更新が失われる等の問題が発生する場合があります。
9. **本製品を「オンライン運用」でご使用の場合、OneDrive、ファイルサーバーに接続できないとパソコンを使用することができません**
本製品を「オンライン運用」でご使用の場合、次の情報を OneDrive、ファイルサーバーに送信したり受信したりする必要があります。
 - ・ 秘密分散処理された断片
 - ・ リスク通知ログこのため、OneDrive、ファイルサーバーに接続できないとパソコンを使用することができません。
OneDrive、ファイルサーバーに接続できる条件については、システム管理者にご確認ください。

10. 本製品を「オフライン運用」でご使用の場合、持ち出しデバイスとして登録したスマートフォン、USB メモリに接続できないとパソコンを使用することはできません

本製品を「オフライン運用」でご使用の場合、次の情報を持ち出しデバイスとして登録したスマートフォン、USB メモリに送信したり受信したりする必要があります。

- ・ 秘密分散処理された断片
- ・ リスク通知ログ

このため、持ち出しデバイスとして登録したスマートフォン、USB メモリに接続できないとパソコンを使用することができません。持ち出しデバイスとして登録したスマートフォン、USB メモリに接続できないのは次のような場合です。

- ・ 持ち出しデバイスとして登録したスマートフォンとの Bluetooth 接続がないまたは不安定
- ・ スマートフォン上のアプリが実行されていない
- ・ USB デバイスがパソコンに認識されていない（デバイス マネージャーから見えない）
- ・ USB デバイスが接続できていない（コネクタ破損、差し込みが浅いなど）

11. OneDrive 同期アプリ以外のクラウドストレージのパソコン版アプリをご利用になる場合は、本製品の設定を変更する必要があります

- ・ クラウドストレージのパソコン版アプリで、クラウドストレージをパソコンのドライブやフォルダーに割り当てる際は、秘密分散領域以外を割り当て先に指定してください（※1）。

秘密分散領域を指定すると、ファイルが正しく保存されない可能性があります。

- ・ クラウドストレージのパソコン版アプリを割り当てたドライブやフォルダーには、「リスクとして扱わない」設定を適用してください（※1）。

この設定を変更するには、秘密分散領域以外のパソコン内蔵ディスクの保護に関する設定（Config-LocalFile.yml）の LocalFileCheckFilePathFilters を編集してください（※2）。

設定を適用しない場合、PC 上で検出されたリスクファイルを削除すると、クラウドストレージ上のファイルも削除される可能性があります。

- ・ サーバーや持ち出しデバイスから切断する際に「リスクが検出されました」というメッセージが表示された場合は、「パソコンの内蔵ドライブのドライブレターを表示する」設定を適用してください（※3）。

この設定を適用するには、秘密分散領域以外のパソコン内蔵ディスクの保護に関する設定（Config-LocalFile.yml）の IsEnableLocalDriveHidden を false に変更してください（※2）。

※1：これらの設定変更が必要なため、パソコン内に残るクラウドストレージのキャッシュは本製品では保護されません。クラウドストレージ内のファイル（キャッシュ）がパソコンに残らないよう設定してご利用ください。設定方法は各クラウドストレージのマニュアルをご参照ください。

※2：本製品の設定変更方法は「操作マニュアル（管理者用）」の「付録 4.4 構成ファイル」をご参照ください。

※3：この設定を適用すると、パソコンの内蔵ディスクのドライブレターがエクスプローラーに表示されます。なお、ドライブレター非表示設定と、クラウドストレージをパソコンのドライブやフォルダーに割り当てる設定は併用できません。

12. Windows がローカルディスクとして認識する外付けドライブはエクスプローラー上に表示されません

本製品をインストールし初期設定を実施すると、「ローカルディスク」として認識される外付けドライブはエクスプローラー上に表示されなくなります。まれに外付け USB ドライブでもローカルディスクとして認識されるものがあるためご注意ください。

ドライブがローカルディスクとして認識されるか否かは以下の方法で確認することが出来ます。

1. Windows の PowerShell で "[IO.DriveInfo]::GetDrives()" のコマンドを実行します。
2. DriveType : Fixed と表示されたドライブは「ローカルディスク」と認識されています。

13. 一度に大量のファイルを扱うアプリとの併用はできません

本製品の秘密分散処理との競合が発生する為、一度に大量のファイルを扱うアプリ（開発環境、Visual Studio 等）との併用はできません。

14. エクスプローラーの縮小表示やサムネイル表示は利用しないでください

本製品の初期設定時にエクスプローラーの縮小表示やサムネイル表示はオフに設定されます。オンに設定変更しないでください。

15. OneDrive の「この PC のフォルダーをバックアップする（重要な PC フォルダーを OneDrive にバックアップする）」設定でバックアップ対象として設定したフォルダーは秘密分散で保護されません

OneDrive を使用してフォルダーをバックアップする場合、バックアップされたフォルダー内のファイルは秘密分散処理されません。OneDrive を使用してフォルダーをバックアップする機能をオフにしたい場合、Microsoft 社の技術情報(※)を参考に KFMBlockOptIn ポリシーを設定してバックアップをオフにしてください。

※ <https://learn.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/use-group-policy>

16. 秘密分散領域に作成したフォルダーやファイルに暗号化を設定している状態で「ファイルの保護を無効にする」操作を行わないでください

暗号化されたファイルが存在する状態で「ファイルの保護を無効にする」操作を行うと、これらのファイルが開けなくなる場合があります。このような場合は、ファイルの保護が無効になっている状態で「システム権限」で暗号化を解除することで、再びファイルを開けるようになります。

1. サーバーに接続できない

1. 「OneDrive に接続できませんでした」、または、「ファイルサーバーに接続できませんでした」というメッセージが表示される

次の対処を行ってください。

- OneDrive やファイルサーバーに接続できる状態であることを確認してから、再度「OneDrive に接続する」または「ファイルサーバーに接続する」を行ってください。
- OneDrive やファイルサーバーに接続できる状態であるのにエラーが表示された場合は、一度パソコンを再起動してください。.NET ランタイムが更新された後、パソコンが再起動されるまでの間は「OneDrive に接続できませんでした」、「ファイルサーバーに接続できませんでした」というメッセージが表示されることがあります。なお、.NET ランタイムは Windows Update により更新されることがあります。
- パソコンを再起動してもエラーが表示される場合は、OneDrive やファイルサーバーへのアクセスが集中し接続が不安定になっている可能性があります。この場合は少し時間を開けてから再度サーバーに接続する操作を行ってください。
- 繰り返しエラーが表示される場合は、システム管理者にサーバーの状況を確認してください。

2. OneDrive から切断されて、接続できなくなった

次の対処を行ってください。

- ネットワークに接続されていることを確認してください。
- OneDrive に接続するときに、「アカウントに接続」画面が表示されることがあります。この画面が表示された場合は初期設定をしたときに指定したアカウントを入力してください。
- 一度ネットワーク接続を完全に切断してから接続しなおすと OneDrive に接続できるようになることがあります。有線 LAN のケーブルを取り外したり、無線 LAN をオフにしたりして 10 秒程度待ってから、有線 LAN や無線 LAN に接続し、ネットワークに接続しなおして OneDrive への接続を試してください。
- 「OneDrive に接続してください」ポップアップウィンドウが表示されている場合、「接続確認」をクリックして、OneDrive に接続されていることを確認してください。
- Web ブラウザーで OneDrive にアクセスし、「LocalDataProtection」フォルダーを開けることを確認してください。開けない場合はシステム管理者に OneDrive の状況を確認してください。

2. 持ち出しデバイスに接続できない

1. iPhone を持ち出しデバイスにして使用している時に、接続時にエラーが表示された

iPhone を持ち出しデバイスに使用している場合、スマートフォン用アプリ「Local Data Protection」を起動していないと接続時にエラーになる可能性があります。使用する際には、スマートフォン用アプリ「Local Data Protection」を起動してください。

2. 「スマートフォンに接続」画面でスマートフォンに接続できない

次の対処を行ってください。

- パソコンの Bluetooth がオンになっていることを確認してください。
- スマートフォンの Bluetooth がオンになっていることを確認してください。
- スマートフォンで「Local Data Protection」アプリが実行されていることを確認してください。
 - ※ スマートフォンを再起動すると「Local Data Protection」は終了されます。スマートフォンを再起動したら「Local Data Protection」を実行しなおしてください。
 - ※ 「Local Data Protection」を実行した後、タスク画面などから終了した場合には「Local Data Protection」を実行しなおしてください。
- 周囲の電波状況の影響で Bluetooth 接続が安定しない場合、スマートフォンと接続することができません。スマートフォンをパソコンに近づけるか別の場所に移動するかしてからスマートフォンの接続を行ってみてください。
- パソコンとスマートフォンのペアリングを再度行ってみてください。

3. Windows にサインインしてパソコンを使っている間にスマートフォンから切断されスマートフォンに接続できない

次の対処を行ってください。

- ・ パソコンの Bluetooth がオンになっていることを確認してください。
- ・ スマートフォンの Bluetooth がオンになっていることを確認してください。
- ・ スマートフォンで「Local Data Protection」アプリが実行されていることを確認してください。
 - ※ スマートフォンを再起動すると「Local Data Protection」は終了されます。スマートフォンを再起動したら「Local Data Protection」を実行しなおしてください。
 - ※ 「Local Data Protection」を実行した後、タスク画面などから終了した場合には「Local Data Protection」を実行しなおしてください。
- ・ 周囲の電波状況の影響で Bluetooth 接続が安定しない場合、スマートフォンと接続することができません。スマートフォンをパソコンに近づけるか別の場所に移動するかしてからスマートフォンの接続を行ってみてください。
- ・ パソコンとスマートフォンのペアリングを再度行ってみてください。

3. オンライン・オフライン運用の切り替え時のトラブル

1. 「持ち出しデバイスの使用は禁止されています」のメッセージが表示され、「オフライン運用」に切り替えられない

「オフライン運用」に切り替えるには、持ち出しデバイスの使用が許可されている必要があります。

持ち出しデバイスの使用許可については、システム管理者にご確認ください。

2. 「スマートフォンに接続できませんでした」または「USB メモリに接続できませんでした」というエラーが表示され、「オンライン運用」から「オフライン運用」に切り替えられない

本製品のホーム画面で「オンライン運用」から「オフライン運用」に切り替える場合には、サーバー（オンライン運用）と持ち出しデバイス（オフライン運用）の両方に接続できる状態である必要があります。

「スマートフォンに接続できませんでした」または「USB メモリに接続できませんでした」というエラーが表示された場合には、持ち出しデバイスに接続されていることを確認してから、「スマートフォンに持ち出す」、「USB メモリに持ち出す」を再度行ってください。

3. 「OneDrive に接続できませんでした」または「ファイルサーバーに接続できませんでした」というエラーが表示され、「オフライン運用」から「オンライン運用」に切り替えられない

次の対処を行ってください。

- ・ サーバーと持ち出しデバイスの両方に接続できる状態であることを確認してください。「オフライン運用」から「オンライン運用」に切り替える場合は、サーバーと持ち出しデバイスの両方に接続できる状態である必要があります。サーバーと持ち出しデバイスの両方に接続できる状態であることを確認してから「OneDrive に戻す」、「ファイルサーバーに戻す」を再度行ってください。
- ・ サーバーと持ち出しデバイスの両方に接続できる状態であるのにエラーが表示された場合は、一度パソコンを再起動してください。.NET ランタイムが更新された後、パソコンが再起動されるまでの間は「OneDrive に接続できませんでした」、「ファイルサーバーに接続できませんでした」というメッセージが表示されることがあります。なお、.NET ランタイムは Windows Update により更新されることがあります。
- ・ パソコンを再起動してもエラーが表示された場合は、サーバーへのアクセスが集中しているために接続が不安定になっている可能性があります。この場合は少し時間を開けてから再度「OneDrive に戻す」、「ファイルサーバーに戻す」を行ってください。

4. サーバーまたは持ち出しデバイスからの切断に関するトラブル

1. 「OneDrive に接続できませんでした」、「ファイルサーバーに接続できませんでした」というエラーが表示され、「OneDrive から切断する」、「ファイルサーバーから切断する」を実行できない

次の対処を行ってください。

- ・ サーバーに接続できる状態であることを確認してください。「OneDrive から切断する」「ファイルサーバーから切断する」を実行するには、サーバーに接続できる状態である必要があります。サーバーに接続できる状態であることを確認してから「OneDrive に戻す」、「ファイルサーバーに戻す」を再度行ってください。
- ・ サーバーに接続できる状態であるのにエラーが表示された場合は、一度パソコンを再起動してください。.NET ランタイムが更新された後、パソコンが再起動されるまでの間は「OneDrive に接続できませんでした」、「ファイルサーバーに接続できませんでした」というエラーが表示されることがあります。なお、.NET ランタイムは Windows Update により更新されることがあります。
- ・ パソコンを再起動してもエラーが表示された場合は、サーバーへのアクセスが集中しているために接続が不安定になっている可能性があります。この場合は少し時間を開けてから再度「OneDrive から切断する」、「ファイルサーバーから切断する」を行ってください。

2. 「スマートフォンに接続できませんでした」、「USB メモリに接続できませんでした」というエラーが表示され、「スマートフォンから切断する」、「USB メモリから切断する」を実行できない

次の対処を行ってください。

- ・ 持ち出しデバイスに接続できる状態であることを確認してください。「スマートフォンから切断する」、「USB メモリから切断する」を実行するには、持ち出しデバイスに接続できる状態である必要があります。持ち出しデバイスに接続できる状態であることを確認してから「スマートフォンから切断する」、「USB メモリから切断する」を再度行ってください。
- ・ 持ち出しデバイスに接続できる状態であるのにエラーが表示された場合は、一度パソコンを再起動してください。.NET ランタイムが更新された後、パソコンが再起動されるまでの間は「スマートフォンに接続できませんでした。」、「USB メモリに接続できませんでした。」というエラーが表示されることがあります。なお、.NET ランタイムは Windows Update により更新されることがあります。

5. ファイル保存に関するトラブル

1. Web ブラウザーでファイルをダウンロードできない

次の対処を行ってください。

- ・ サーバーや持ち出しデバイスへ接続しているか、確認してください。サーバーや持ち出しデバイスへ接続されていない場合、ダウンロードフォルダなど秘密分散領域へファイルを保存することは出来ません。
- ・ ダウンロードしようとしているファイルのサイズが大きい場合、秘密分散処理を行えず、ファイルをダウンロードできないことがあります。このような場合は、秘密分散処理の作業領域のサイズを大きくしてください。秘密分散処理の作業領域は本製品の設定画面から設定することができます。
- ・ Web ブラウザーの既定のダウンロード先が OneDrive 同期フォルダーになっている場合は、ファイルのダウンロード先として秘密分散領域内の別のフォルダーを指定すると、ファイルをダウンロードできないことがあります。このような場合は、一度 OneDrive 同期フォルダー内にファイルをダウンロードしてから移動するか、既定のダウンロード先を秘密分散領域内のフォルダーにしてください。

2. エクスプローラーや「名前をつけて保存する」ウィンドウでユーザフォルダー以外のフォルダーを指定できない

本製品の仕様です。本製品で初期設定を完了する（ファイルの保護を有効にする）と、利用者からは秘密分散領域のフォルダーしか見えなくなります。

アプリによっては、デフォルトの保存先が秘密分散領域外になっているものがありますので、その場合は、保存先を秘密分散領域のフォルダーに変更してご使用ください。

3. 秘密分散処理の作業領域の空き容量が足りているのに Word、Excel、PowerPoint などオフィスアプリでファイルを保存できない

Word、Excel、PowerPoint などオフィスアプリをお使いになる場合は、秘密分散処理の作業領域の空き容量・サイズとして、保存したいファイルサイズの 3 倍程度を確保するようにしてください。

本製品を導入している環境で Word、Excel、PowerPoint などオフィスアプリのファイルを保存する場合は、実際のファイルサイズの 2 倍以上の容量を使用します。

4. 秘密分散領域として保護しているフォルダーにファイルを保存することができない

サーバーまたは持ち出しデバイスへ接続されていることを確認してください。秘密分散領域として保護しているフォルダーにファイルを保存するときは、サーバーまたは持ち出しデバイスに接続されている必要があります。

6. 表示に関するトラブル

1. エクスプローラーの縮小表示やサムネイルが表示されない

本製品の初期設定時にエクスプローラーの縮小表示やサムネイル表示はオフに設定されます。オンに設定変更しないでください。

2. デスクトップのアイコンの配置が変わった

本製品の仕様です。本製品を導入している環境では、サーバーや持ち出しデバイスへの接続または切断を実行したタイミングでデスクトップのアイコンの非表示／表示の設定が変更されます。この動作に伴いデスクトップのアイコンが再配置されるため、アイコンの位置が変わる場合があります。

3. 外付けドライブがエクスプローラー上に表示されない

本製品をインストールし初期設定を実施すると、「ローカルディスク」として認識される外付けドライブはエクスプローラー上に表示されなくなります。まれに外付け USB ドライブでもローカルディスクとして認識されるものがあるためご注意ください。

ドライブがローカルディスクとして認識されるか否かは以下の方法で確認することが出来ます。

1. Windows の PowerShell で "[IO.DriveInfo]::GetDrives()" のコマンドを実行します。
2. DriveType : Fixed と表示されたドライブは「ローカルディスク」と認識されています。

4. Windows にサインインしたら本製品の初期設定に誘導するガイドが表示された

本製品の初期設定を完了するまでは、初期設定に誘導するガイドが Windows にサインインしたときに自動的に表示されます。本製品の初期設定は、利用するユーザーアカウントでサインインして行ってください。

他のユーザーアカウントで初期設定すると正常に動作しません。ほかのユーザーアカウントで Windows にサインインしたときは、ガイドを閉じてください。このとき「データ漏えいリスク有」と警告されますが、「OK」ボタンを押して閉じてください。

5. ファイルの追加や削除、サーバーや持ち出しデバイスへの接続や切断を行ったときに、エクスプローラーやデスクトップの表示が正しく更新されない

F5 キーを押してエクスプローラーの表示を更新してください。

ファイル一覧が更新されるときに、エクスプローラーが正しく表示を更新しないことがあります。

本製品の秘密分散処理が、ファイルサーバーや持ち出しデバイスの接続状況に応じてファイルを見せたり隠したりする制御も、この影響を受けてしまい、エクスプローラーの表示に正しく反映されないことがあります。

6. 設定画面を表示した状態で Windows の設定でハイコントラストに設定したら一部表示が見えなくなった

ハイコントラストに設定を変更する場合は、本製品のウィンドウをすべて閉じてから実施してください。

本製品の設定画面を表示した状態で Windows の設定でハイコントラストに設定すると一部表示が見えなくなる場合があります。設定後パソコンを再起動すると見えるようになります。

7. サーバー、持ち出しデバイスから切断した状態でも、秘密分散処理されたファイルがクイックアクセスの「最近使用したファイル」に表示された

本製品の仕様です。サーバー、持ち出しデバイスから切断した状態では、アクセスができないため中身を確認・編集することはできませんが、ファイル名は表示されます。

「最近使用したファイル」の表示は、エクスプローラーの「表示タブ」-「オプション」を選択し、フォルダーオプションの設定を変更することで非表示に設定できます。

8. Windows のアップグレードを実施したら、デスクトップ上にあったファイルが消えた

本製品動作中に Windows のアップグレードを実施すると、デスクトップ上のファイルが、
"C:¥Windows.old¥users¥username¥Desktop"フォルダーに移動される場合があります。
その場合は、"C:¥Windows.old¥users¥username¥Desktop"フォルダー内のファイルを、
"C:¥users¥username¥Desktop"フォルダーに戻すことで復旧できます。

9. アプリの画面が部分的に表示されない

本製品を 1366x768 ドットよりも低い解像度、またはタブレットパソコンなどを縦画面でお使いの際に、アプリの画面が表示しきれないことがあります。その場合、標準の解像度や横画面にてご利用ください。

10. 本製品の通知アイコンや画面が表示されない

本製品の通知アイコンや画面が表示されない場合はパソコンを再起動してください。

.NET ランタイムが更新された後、パソコンが再起動されるまでの間、本製品の通知アイコンや画面が表示されないことがあります。なお、.NET ランタイムは Windows Update により更新されることがあります。

7. OneDriveに関するトラブル

1. プロキシ設定されたネットワーク外の一般のネット回線から OneDrive に接続できる

OneDrive の仕様です。プロキシ設定されたネットワークに接続してなくても、OneDrive に接続されて、デスクトップやドキュメントなどの秘密分散領域が使えることがあります。

2. 初期設定の OneDrive への接続確認画面で正しいユーザーアカウント・パスワード・多要素認証を行っているのに「OneDrive が利用できません」となり失敗する

アカウント認証が成功している場合、再度 OneDrive への接続確認を実行すると正常に接続されますので「接続確認」ボタンをもう一度クリックしてください。

本製品の初期設定の OneDrive への接続確認では、アカウントの認証と OneDrive の個人フォルダーへのアクセス可否を確認しています。アカウント認証が成功した直後の個人フォルダーへのアクセス確認が失敗することがあり、この場合に「OneDrive が利用できません」というメッセージが表示されます。

3. OneDrive 同期アプリがファイルを同期しなくなった

Microsoft 社が公開するサポート情報 (※)をご確認ください。

※ <https://support.microsoft.com/ja-jp/office/onedrive-が-変更の処理-でスタックしている-b386b813-9b66-4e47-8c4c-2b45533edccd>

4. OneDrive 同期アプリを使っていないのに OneDrive 同期アプリのキャッシュの確認画面が表示された

本製品の OneDrive 同期アプリとの連携を有効にしている場合、ご使用のアプリによっては、OneDrive 同期フォルダー以外のファイルも OneDrive 同期フォルダーのファイルとして検出される場合があります。このような場合は、OneDrive 同期アプリとの連携を無効にしてください。

影響する可能性があるアプリは

「HKLM¥Software¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Explorer¥SyncRootManager」

配下のレジストリキーを参照することで確認できます。

このレジストリキーについては Microsoft 社の技術情報(※)をご確認ください。

※ <https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/shell/integrate-cloud-storage>

8. エラーメッセージが表示された場合

1. 「Client Session Not Found」というエラーが表示され初期設定を行えなかった

初期設定を行っているときに「Client Session Not Found」というエラーが表示された場合、パソコンを再起動してから初期設定を行ってください。

このエラーは、.NET ランタイムが更新された後、パソコンが再起動されるまでの間に発生します。なお、.NET ランタイムは Windows Update により更新されることがあります。

2. 「予期しないエラーのため、ファイルをコピーできません」というエラーメッセージが表示された

「予期しないエラーのため、ファイルをコピーできません」というエラーメッセージが表示された場合、他に使っているファイルがあれば閉じてから「再試行」ボタンをクリックしてください。

このエラーメッセージが頻繁に表示される場合は、秘密分散処理のファイルを結合する作業領域が不足している可能性があります。本製品の設定から RAM ディスクのサイズを大きくすると、秘密分散処理のファイルを結合する作業領域を増やすことができます。

3. 「Error connecting to subchannel」というエラーが表示された

このエラーが表示された場合、以下をご確認ください。

- .NET 8.0 のランタイムがインストールされていること。なお、.NET デスクトップランタイムと ASP.NET Core ランタイムの両方が同じバージョンでインストールされている必要があります。
- Hyper-V などの Windows の仮想化機能を使っていないこと。Windows の winnat サービスが実行されている場合、本製品が動作できなくなることがあります。

Windows の winnat サービスが実行されている環境で本製品を動作させる必要がある場合、以下のようにパソコンの設定を変更してください。

1. 管理者権限でコマンドプロンプトを起動する。
2. 「sc stop winnat」を実行する。
3. 「netsh int ipv4 add excludedportrange protocol=tcp startport=50101 numberofports=1」を実行する。
4. 「sc start winnat」を実行する。
5. パソコンを再起動する。

4. 「アプリケーションの初期化に失敗しました」というエラーが表示された

「アプリケーションの初期化に失敗しました」というエラーが表示された場合、一度パソコンの Bluetooth をオフにして再起動ください。Bluetooth がオフの状態では「アプリケーションの初期化に失敗しました」というエラーが表示されない場合、お使いのパソコンに Bluetooth デバイスが大量に接続されているために、本製品が動作できなくなっている可能性があります。このような場合は、不要な Bluetooth デバイスの接続を解除してください。

5. 「RAM ディスクがいっぱいで結合できません。不要なファイルを閉じてください」というメッセージが表示された

次の対処を行ってください。

- 開いているファイルを閉じ、起動しているアプリケーションを終了させてください。
- エクスプローラーのウィンドウが開いている場合、一度閉じてください。

エクスプローラーはファイルのアイコンやプロパティ情報を表示するためにバックグラウンドでファイルを開くことがあります。

上記の対処を行ってからパソコンを暫く放置すると、使用中の RAM ディスクが解放されファイル操作を行えるようになります。

6. 持ち出しデバイス（スマートフォン）が接続されていないというメッセージが表示された

スマートフォン（Android スマートフォン／iPhone）を持ち出しデバイスとして秘密分散機能を利用している時に、持ち出しデバイスが接続されていないというメッセージが表示された場合は、次の対処を行ってください。

- パソコンの Bluetooth の設定（スタート→設定→デバイスの順にクリックし、画面左側の「Bluetooth とその他のデバイス」をクリック）の画面の右側の Bluetooth のスイッチを一度オフにしてから再度オンにしてください。
- 上記で改善しない場合、パソコンとスマートフォンを再起動してください。
- 以下の操作を行うと、オフライン運用時に新規作成したファイルやファイルの更新が破棄される代わりに、持ち出しデバイスを接続しなくてもオンライン運用へ戻すことができます。
 1. サーバーに接続できる状態とします。
 2. 持ち出しデバイスが接続されていないというメッセージの「スマートフォンがない場合」をクリックし、サーバーに接続します。
 3. 再度オフライン運用する場合は、持ち出しデバイス設定をやり直してください。

7. Windows にサインインするときに「PIN を忘れた場合」をクリックしてサインインしたら「複数ユーザー利用はサポートしていません」と表示された

本製品の仕様です。「PIN を忘れた場合」がクリックされたとき、Windows の内部動作として複数のユーザーアカウントがサインインにした状態になります。パソコンを再起動して「PIN を忘れた場合」をクリックせずにサインインしてください。

8. 本製品の更新を適用した際に「Local Data Protection for FAT PC の更新プログラムが破損しています。処理を中断します」、または、「更新プログラムのダウンロードに失敗しました。更新を中断します」と表示された

このエラーが表示された場合、以下をご確認のうえ再度更新を適用してください。

- ・ お使いのパソコンがネットワークに接続されていることを確認してください。
- ・ 接続されているネットワークが安定しており、通信速度が十分であることを確認してください。

上記の対処を行ってもネットワーク経由で更新を適用できない場合は、システム管理者から更新プログラムを直接入手して手動で適用してください。

9. サーバーからの切断時に「リスクが検出されました。このまま続行すると、安全な状態にはなりません。続行しますか？」と表示された

クラウドストレージをご利用中にこのメッセージが表示された場合は、本製品の設定が「内蔵ドライブのドライブレターを表示する」設定となっているか確認してください。

「内蔵ドライブのドライブレターを表示する」設定となっていない場合は、本製品の「操作マニュアル（管理者用）」の「付録 4.4 構成ファイル」を参照のうえ、秘密分散領域以外のパソコン内蔵ディスクの保護に関する設定（Config-LocalFile.yml）の IsEnableLocalDriveHidden を false に編集してください。

※ この設定を適用すると、パソコン内蔵ディスクのドライブレターがエクスプローラーに表示されるようになります。

9. その他のよくあるご質問

1. 本製品が持ち出しデバイスとして登録したスマートフォン、USB デバイスに保存するファイルについて

本製品は、持ち出しデバイスとして登録したスマートフォン、USB デバイスに次のファイルを格納します。

これらのファイルサイズの合計は 1MB 未満です。

- ・ 秘密分散処理された断片
- ・ リスク通知ログ

2. デバイスマネージャー上は USB メモリが見えているのに、オフライン運用で USB メモリを利用できない
USB メモリが Windows に正しく認識されていない可能性があります。

USB メモリをエクスプローラーの「取り出し」メニューで取り出してから、パソコン本体から USB メモリを取り外してください。取り外した後、再度 USB メモリを接続してください。

3. Android 9 以前のスマートフォンをを使いの場合、Local Data Protection をインストールできません

Google Play 上で最終更新日が 2025 年以降と表示されている Local Data Protection は Android 9 以前のスマートフォンにはインストールできません。

4. Visual Studio でプロジェクトを開いていると定期的に「プロジェクトは環境外で変更されています」というポップアップが表示される

本製品の秘密分散処理と Visual Studio の機能（プロジェクト変更監視）の動作が競合するため発生します。

開発環境をお使いになる場合は、本製品をアンインストールするか、本製品の制御対象外のフォルダーで作業するようにしてください。

5. Visual Studio でプロジェクトをビルドすると、途中でアクセス拒否などのエラーが発生して、ビルドが失敗する

本製品の秘密分散処理と Visual Studio の機能（ビルド）の動作が競合するため発生しています。

開発環境をお使いになる場合は、本製品をアンインストールするか、本製品の制御対象外のフォルダーで作業するようにしてください。

6. 秘密分散領域にトレースログを保存したらリスクとして検出された

本製品の仕様です。調査用のログファイルは、秘密分散処理されずに保存されます。そのため、保存先に秘密分散領域を指定すると、「秘密分散領域上の、分散されていないファイル」となり、リスクとして検出されます。

このリスクを解消するには、2 つの方法があります。

- ・ 秘密分散領域外に保存する
- ・ 秘密分散領域に保存し、すぐにシステム管理者に送付し、秘密分散領域に保存したログファイルを削除する

7. アプリがインストールされているのにトレースログでリスクを確認すると、「アンインストール済」と表示される
アプリがインストールされている状態であっても、秘密分散処理をする前の状態（ファイルの保護が無効、または、初期設定されていない）になっていると、トレースログのリスクは「アンインストール済」になります。
8. リスク通知ログが更新されていない
サーバーや持ち出しデバイスから切断せずにパソコンの再起動やシャットダウン、サインアウトをするとリスク通知ログが更新されません。
Windows やその他のアプリから再起動、シャットダウンの操作要求があった場合は、必ずサーバーや持ち出しデバイスから切断してから、それらの操作を実行してください。
9. ファイルシステムが ReFS のドライブに保存されたファイルが、リスクとして検出されない
本製品の仕様です。「Local Data Protection for FAT PC」は、NTFS のドライブのみ対象です。その他のファイルシステムには対応していません。
10. 初期設定に非常に長い時間がかかる
初期設定を行うときにパソコン内に存在しているファイルを秘密分散処理しているため、パソコン内にあるファイル数に比例して時間がかかります。
11. ファイルの保護を無効にする操作に非常に長い時間がかかる
ファイルの保護を無効にする操作は秘密分散されたファイルの数に比例して時間がかかります。
ファイルの保護を無効にする操作にかかる時間を短縮するには、操作を行う前に次の対処を行ってください。
- 必要なファイルをパソコンから OneDrive やファイルサーバーへ移動してください。
 - 不要なファイルを削除してください。
 - ゴミ箱を空にしてください。
 - 上記の対処を行った後に、一旦サーバーから切断してパソコンを再起動させてください。
12. ファイルの保護を無効にする操作を実行すると「ディスク空き容量が不足しています」のメッセージが表示され、ファイルの保護を無効にできない
「ディスク空き容量が不足しています」のメッセージで「OK」を選択して、ファイルの保護を無効にする処理を中止してから、次の対処を行ってください。
- 必要なファイルをパソコンから OneDrive やファイルサーバーへ移動してください。
 - 不要なファイルを削除してください。
 - ゴミ箱を空にしてください。
 - 上記の対処を行った後に、一旦サーバーから切断してパソコンを再起動させてください。
- 再起動後、再度ファイルの保護を無効にする操作を行ってください。
13. シャットダウンをキャンセルしてデスクトップに戻ると通知領域から LDP のアイコンが消えて再接続やアプリ操作ができなくなった
すべてのアプリ画面を終了してから、パソコンを再起動させてください
Word ファイルなどを編集中にシャットダウンを実行すると抑止機能が働きますが、シャットダウンをキャンセルしてデスクトップに戻ると、通知領域から LDP のアイコンが消えてしまい再接続やアプリ操作ができなくなる場合があります。

14. スマートフォン用アプリの起動時や再起動時にメッセージが表示される

スマートフォンの OS のバージョンにより、以下のメッセージが表示される場合があります。

- Android スマートフォンをご利用の場合
 - 「付近のデバイスの検出、接続、相対位置の特定を Local Data Protection に許可しますか？」のメッセージが表示された場合は「許可」を選択してください。
誤って「許可しない」を選択した場合は、Android の「アプリの権限」の設定画面から「付近のデバイス」を「許可する」の設定を適用してください。
 - 「アプリにバックグラウンドでの常時実行を許可しますか？」のメッセージが表示された場合は「許可」を選択してください。
誤って「許可しない」を選択した場合は、Android の「アプリのバッテリー使用量」の設定画面から「バックグラウンド使用を許可」の設定を適用してください。
- iPhone をご利用の場合
 - 「“LDP”は通知を送信します。よろしいですか？」のメッセージが表示された場合は「許可」を選択してください。
誤って「許可しない」を選択した場合は、iPhone の設定の「通知」から、「LDP」の「通知を許可」の設定を適用してください。
 - 「“LDP”で Bluetooth デバイスを探すことを許可しますか？」のメッセージが表示された場合は「許可」を選択してください。
誤って「許可しない」を選択した場合は、iPhone の設定の「プライバシーとセキュリティ」の「Bluetooth」の「LDP」をオンに設定してください。

15. パソコンと Android スマートフォンをペアリングする際にデバイスの一覧に登録するスマートフォンが表示されない

Android の Bluetooth がオンになっていることを確認してから、接続設定画面で「新しいデバイスとペア設定」を選択してください。

商標および著作権

- Google、Google Drive、Google Play は、Google LLC の商標または登録商標です。
- iPhone は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
- iPhone の商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- Bluetooth[®] のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、富士通クライアントコンピューティング株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- その他の記載されている会社名、製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。
- その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright Fujitsu Client Computing Limited 2023-2026